

アワプラジオ通信【2015年11月号】

インタビューシリーズ

『本の街』神保町から新たな何かを編集 (EDIT) する

コ・ワーキング&イベントラウンジ EDITORY

ディレクター 河原田保彦さんに聞く



国内の企業や海外での勤務などを経て、2014年からEDITORYのディレクターを務めている。神保町でこれからの街を考える「THINK! TOKYO LOCALプロジェクト」の事務局でも活動。

■EDITORYのウェブサイト

<http://www.editory.jp/>

——EDITORYについて教えてください。

EDITORY（東京・神保町）は自分たちのオーナーがやっている自社ビルで運営しておりまして1階～7階まであり、コ・ワーキングのスペース、イベントのスペース、ベンチャー企業が入っているスペースのある、複合型施設となっています。コ・ワーキングスペースは30人ほどの会員の方が同じフロアを共有し、共同で仕事をしたり趣味の合う仲間同士で飲みに行ったりと、様々なかたちでコラボレーションが行われています。

イベントラウンジは一般の方にも開放しておりまして、1ヵ月に30～40本の企画が入っています。平日の昼間は企業のワークショップやセミナー、週末は映画や本、コーヒー、演劇のイベントなど多種多

様なので、僕らも飽きるということがなく、毎回刺激をもらっています。

——EDITORYという名前の意味は何でしょうか。

“edit”（編集）と”territory”（領域）を組み合わせた造語で、同じ空間に本当に様々な方がいるので、他の方とコミュニケーションしたり、周りでごんばっている人の姿を見ることで自分も刺激を受けたり、結果、自分自身が編集され自分のテリトリーを広げていける空間にしたいという思いで命名されたそうです。

——始まったきっかけとはどういうものだったのですか。

もともとこのビルには出版社さんが入っていたのですが、3年ほど前ですが事業拡大に伴い会社を移動することになりました。不動産ですので空室を埋めなくてはと考えたときにオーナーが、人々の働き方が変わってきているという点に目を付けました。オーナーは音楽業界に10年ほどいたこともあり、流行にとっても敏感です。

そこで同じスペースをただ貸し出すのではなくシェアしてもらい、数をいっぱい入れることで効率良く売り上げにつなげたい、そして若い方たちを応援したいという気持ちもあり作られました。

立ち上げのときにはすでにコ・ワーキングスペースを運営されている方に意見をいただくなど、多くの方のご協力でのスペースは設計されました。また、EDITORYが出来て2年4ヵ月経ちますが、本当にいろいろな方からこの場所を活動に利用していただき、そういう方々がここを作り上げ成長させてくださったと感じています。

——ディレクターというのはどのような役割なのでしょう。

どういったコンセプトでこの EDITORY を展開していきたいか、どういった方にこのコ・ワーキングスペースを利用してほしいか、どういった内容をこの場で提供できるか、といったブランド全体の方向性を決めるような役割です。ただの場所貸しにならないようなイベントも内容にこだわり、参加して下さった方がまた次は利用者として来てくれるよう外部ともつながりを作っていくように心がけています。

僕は昔、社会人をした後に建築の勉強をするため一度学生に戻った経験があります。当時は造形というハード面を作ることはあまり向いていませんでしたが、飲み会を開いたりして人と人をつなぐソフト面での役割をすることが多く、いま考えるとそのときからこういった仕事に向いていたのかなと思いますね。

——印象的なエピソードなどあれば紹介していただけますか。

以前に地元メディアの方から女性で食に関する記事を書ける人材がないかという問い合わせがあり、たまたま EDITORY の中にその分野に詳しい方がいたので紹介したところ、お互いに相性が良く仕事につながったことがうれしかったエピソードですね。

この EDITORY は他のコ・ワーキング広場との差別化という目的、そしてまた働くための場でもありますから、仕事を行う面で神保町という地域に密着した場にしたいと考えています。

地域の悩みを会員さんが解決することで、地域の方も助かり会員の方も仕事ができるので、互いにメリットが生まれることは良い効果ですね。

——「TOKYO LOCAL PEOPLE」とは何ですか。

昨年から始動した「THINK! TOKYO LOCAL」プロジェクトの一環で、神保町の地元の人を紹介していくプロジェクトです。神保町というと古書やカレーの街と思われがちですが、実際に路地を歩いてみるとブロックごとに町の景色が変わります。常に新しい発見があるところが魅力なので、すでに知られているお店はもちろんですが、多くの方が持っているイメージとは違う面を紹介しよう心がけています。

神保町に住もうと考えている、もしくは働いている方々にとって、この町にどんな人がいるのか顔が見えることで安心感も得られますし、神保町で働く人にとってもただ家と会社の往復ではなく街を楽しんでもらえるツールになればと考えています。

——今後はどのような活動を展開されますか。

EDITORY に来られる方は神保町が好きでうちを選んでくださる方が多いので、地域の方と EDITORY そのものをもっと連携できるような環境を作っていきたいです。

また現在、「THINK! TOKYO LOCAL」プロジェクトを事業活動としてやっていますので、イベントを開催したことだけで満足するのではなく、しっかりと収益をあげられるものにしたいです。

個人的な目標としては、いまはウェブが発達し経験しなくてもわかってしまうことが増えているので、リアルに体験しないと得られない価値というものをどう作っていくかを考えて行きたいと思っています。

(かわらだやすひこ)

<まとめ：井上舞香>

+++++
アワプラジオ通信は千代田区社会福祉協議会（東京）の中にあるちよだボランティアセンター（3階エレベーター横）に置いてあります。またバックナンバーがウェブサイト上でダウンロードできます。毎月発送を希望される方はご連絡ください。

ボランティア記者募集！（取材からレポート作成まで）

取材対象は特に問いませんが、その対象から社会の問題点や希望が垣間見えるような記事（600～800字）を書いてくださる方を期待しています。メディアの仕事に関心のある学生さんも大歓迎です。また、漫画やイラストの描ける方も募集中です。

※例（イメージ）：ボランティア活動をされる方や受け入れる方へのインタビュー、さまざまな社会問題に関する学習会等への参加レポート、LGBT 当事者などの声をまとめる、名所旧跡などを訪問した際の旅行記、コミケなどのイベントへ参加して考えた若者論やサブカルチャー論について、などなど。

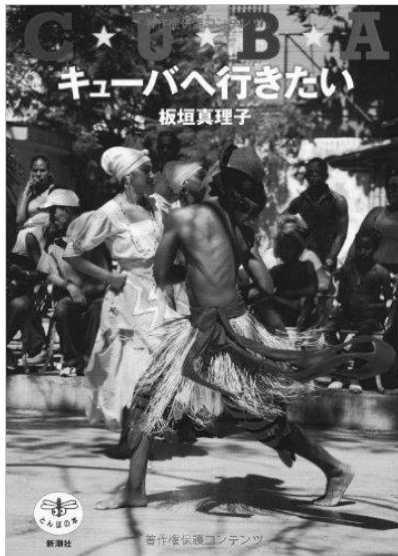
問い合わせ・連絡先：awapuradio@gmail.com / 090-6833-1491

（できるだけメールでお願いいたします）

本の紹介

キューバへ行きたい (2011年3月)

板垣真理子 著 新潮社 (とんぼの本)・1620円



そう、キューバへ行きたいのである。

今夏アメリカとキューバが54年振りに国交正常化することで合意した。政治経済や歴史など難しいことは分からないが、今後数年の間に、現在ある“キューバラしさ”が

徐々にアメリカ色になるであろうことは想像できる。

アメリカの経済制裁はキューバの時を止めた。60年前の愛らしいクラシックカーは丹念に修理が施されて町を走り、人々はスターバックスでもマクドナルドでもなく昔からある地元のバーに集まる。

輸入に頼れない食糧を補うべく農業に注力し、化学肥料も手に入らないため有機栽培へと完全シフトさせた。有機栽培の概念も我々が思うところとは違う。周辺国の援助に頼らず国民のお腹を満たすためになにが最善かを考え抜いた先の有機栽培なのだ。

国民のため。その思いは教育と医療が無料であることでもよく分かる。中南米諸国の中で識字率と学力は群を抜き、平均寿命だって高い。人種差別もほぼ存在しないらしい。読み進めていくとキューバ人がいかに生身の人間らしい生活をしているかがわかる。笑い、踊り、学び、集い、恋をする。恋多き国、それもまたキューバラしさだと著者は言う。彼らは率直に今日を生きている。

アメリカからたった90マイルしか離れていない場所に樂園のような空間があることを知った私は、今とてもキューバへ行きたいのである。(浅香友里)

ガラクタ捨てれば自分が見える (2002年5月)

カレン・キングストン 著・小学館文庫・555円



書店に行くと、片付けや捨てる事を推奨する本、片付けのモチベーションを上げるための本が常に目に入るようになった。本書は、そんな片付け本のなかでもかなり有名なものだ。私は片付けが苦手で、私の部屋の汚さを知って見

かねた友人が勧めてくれて、この本を手にとることとなった。

著者が学んだ風水の理論を使い、部屋の各場所を片付けるとどのような良いことがあるかといった事を説明している。そして何より、この本では「ガラクタ」を捨てることを勧めている。この本がすごいのは、なぜ、ガラクタを捨てられないのかを否応なしに内省させられるところだ。アヒルグッズを無意識のうちに集める女性や、ブタを作り続ける男性など、著者が見てきたクライアントの話はやけにユーモラスでありリアルで、身につまされる。

精神的な話から、ガラクタをどこにどのように溜め込んでいるかという実際的なところまで言い当てられたところで、部屋の各方位のガラクタを捨て、エネルギーの滞留を解消せよというメッセージを読むと、さしもの私も片付けねばという気になってくる。

2015年も残すところ2ヶ月、年末からではとても間に合わないくらい家が散らかっているの、この本を再読して早めに掃除に取り組もうと思っている。

(大森周子)

※編集部注：本書は2013年に加筆された新装版と同じく小学館文庫より発売されています。

Abe's VIEW Vol.12 「民主主義の敵」 あべこう一

民主主義と聞くとどんなイメージでしょうか。多数決、好きなことができる自由、独裁ではないとかそんなところでしょうか。みんなが実際に参加して物事を決めるのは直接民主主義。たくさんが参加して決めようとしてもまとめるのは大変だから、代表者を選んでその人たちに代わりに決めてもらうのが間接民主主義です。ちなみに日本でも町や村では議会に代えて、町村総会といって選挙権を持つ住民による総会を置く条

例をつくるのが法律で認められています（実際にはほとんど過去に例はないようですが）。

主権者などと言いながら日本では民主主義＝間接民主主義で、誰か偉い人や頭のいい人たちがいいように決めてくれるのだからと、主体的に自分たちのことは自分たちが関与していくという意識が高くありません。そもそも間接民主主義とはいえそういうものではないはずなのに、市民の側がそんなことだからつまらない政治家たちに選挙で勝ったからすべて白紙委任されたのだというような言動を許してしまいがちです。



それでは私たちが“民主主義を行う”にはどうしたらいいのでしょうか。集会や学習会に参加してみる、同じような問題意識を持つ人とつながる、意見が異なる人とも正面から向き合ってみる、インターネットなどで情報発信するなどいろいろ考えられるかと思います。しかしながら、たとえば朝から夜中まで仕事をして終電で帰ってぐったりというような生活をしている人に、安民法制の問題点は云々という話をしたところで、「暇人はのんきなものだ。疲れているのにあっちへ行ってくれ！」ということになるのも無理からぬことです。

そんな人にくら“正論”を振りかざしたところで、お互いに憎悪が増幅するばかり。“下々の者たち”が言い争っていて誰がその状況で得をするのだろうかという話。忙しさや物を考えるゆとりの無さこそ民主主義の敵です。だけどわれわれはここを何とか乗り越えなければならないと思うのです。

日本ではそんな状況を強いる社会の仕組みや同調圧力が強固です。民主主義とはそれほど高尚なものでもなければ、手放しでありがたがるようなものでもなく、どれだけ忙しさや物を考えるゆとりの無さを排して、自分で考えて行動するための余白を増やすことができるかのしんどいものなのだとつくづく思います。

インターネットラジオ アワプラジオ

■東京ラブレター（毎週木曜日・21:00～21:30）

首都圏で活動する NPO や NGO、市民グループや個人の方を紹介する番組です。

●11月のオンエア【5日、12日、19日、26日】

「東京ラブレターとの日々と市民メディアへの思い」
NPO 法人 OurPlanet-TV 高木祥衣さんに聞く
ナビゲーター：あべこう一

●番組を聴くには

【パソコンで聴く】「サイマルラジオ」にアクセス。
「近畿」→「FM わいわい」を選択。※Macの方はWindows Media Playerをダウンロードしてください。

【スマートフォンや iPad で聴く】サイマルラジオに対応したアプリ「TuneIn Radio」をダウンロード。
(検索窓で「FMYY」)。

●番組サイトで過去の放送をお聴きいただけます。

<http://awapuradio.com/awapuradio/tokyoletter/>

あべこう一の音楽活動

■下北沢スムルトロン（東京）で毎週火曜日 19:00

～22:00に開催のオープンマイクに時々出演中！

出演のある日のみ前日～当日のあべの Twitter、Facebook 等でお知らせします。

会場：下北沢スムルトロン

(小田急線・京王井の頭線『下北沢駅』北口・西口5分)

チャージ：1オーダーお願いします。

●10分程度演奏します。出演時間は毎回異なります。

■あべこう一公式ブログ

<http://ameblo.jp/kohichi-abe/>

■あべこう一スペシャルサイト

<http://k-abe.jimdo.com/>

<すべてのお問い合わせ>

awapuradio@gmail.com / 090-6833-1491

編集後記

先日、思うところがあってある資格試験を受験しました。ネット上の合格ライン予想では辛うじて合格かと思えるのですが、1ヵ月後の発表までは落ち着かず祈るような思いです。(阿部浩一)

発行：アワプラジオクリエイティブ

107-0052 東京都港区赤坂3-21-5 三銀ビル3F サポートコール内

TEL: 03-6856-0722 FAX: 03-6856-0723

<http://awapuradio.com/> awapuradio@gmail.com